

滞英2年の 生活を顧みて

— 9 —

対日感

砂川 一郎

英国について日本人は随分色々なことを知っているし勉強もしている。英国人のいわゆるジェントルマンシップについても 政治形態や皇室のあり方 又はは公衆道徳に至るまで 英国は日本の模範だとされていた。明治以後の日本の先進たちが 英国をあたかも地上のユートピアの如く 日本人の間に印象づけてきたのだと言えよう。それ程までに日本人は 英国および英国人に対して深く長いあこがれみたいなのを抱き続けてきた。ことに中年以後の人たちにこの感が強い。ところが日本人のこの対英感 は まさにイソのあわびの片想いみたいなものであることを着英早々に思い知らされたのである。着いてまもなくのある日 英国人の博士コースの学生から 日本の季節は 英国と逆であろうと問われたことがあった。ちょっと理解できなかつたので 聞き返してみたら なんのことはない 日本は南半球にあって ニュージーランドの南側に位する南太平洋の中の島だと考えていたのである。あまりのことに2の句がつけなかったが この驚きは次の機会に倍加されてしまった。しばらくたってから カレッジの International Students Club (国際学生クラブ) から日本について講演をたのまれた。そこで話の始めに上のことを紹介したら その場に居合わせた学生全部が 上の博士コースの学生と全く同じように考えていたことを告白した。彼女らは一応皆大学生である。それも国際学生クラブに属しているのであるから 一般大学生よりも外国の事情をずっとよく知っている筈である。そうした連中が日本については このていどの知識しかもっていないのである。日本だったら小学生に聞いても英国が南半球にあるなどと返答する奴は皆無であろう。英国人たちの日本に関する知識は精々 フジヤマ・ゲイシャ・サクラ それから男女混浴の公衆風呂と戦争最中の捕虜虐待位のものであろう。

少数の知日派がいて 彼らは日本および日本人をたいへん愛していることはたしかだが 一般大衆の日本感 は 精々こんなところである。もっともこれも無理からぬ

話で聞くとところによると 小・中・大学を通じて 中国やインドのことはよく教えられるが 日本に関する知識はほとんど教えられないそうである。その上 日々の新聞には タイムズやガーディアン紙などのインテリ向けの新聞以外には ほとんど日本に関する記事は載っていない。皇太子御成婚のニュースが一面の中段位のところに載ったのが私の滞英2年の生活を通じて 一番大きく報導された日本関係のニュースであつたらう。もちろん オブザーバーのような高級日曜新聞や ガーディアンのようにすぐれた特派員を日本に送っている新聞には 時々日本に関する紹介記事が載っていることがある。

しかし大衆は これらの高級紙を読みはしないし またこれらの記事には しばしば大変にゆがめられた日本像が画かれていることがある。ある月曜日の朝 Tolansky 教授がわざわざ私のところにきて 「東京には町名も 街路名も 番地もないのか? それでどうやって郵便配達ができるのか? マンモス都市の東京でそんなことがあろうなどとは到底信じられない」と聞く。聞いてみれば前日のオブザーバー紙に ある有名な批評家の訪日印象記が載っていて そこにそういうことが書いてあつたとのこと。さっそく一部買い求めて読んでみたら なるほどその通りのことが書いてある。それのみならずいぶんな色々のことがゆがめられて報道されている。今 詳しい記事の内容は忘れてしまったが 曰く 「汽車の中で新婚の夫婦と一緒にいた。2人共乗っている間 一言も口を開かずだまりこくっていた。これは見合結婚で気に入らない嫁を押しつけられたためであろう。」「日本には公衆風呂が発達していて 国民の9割位は家に風呂をもっていない。公衆風呂で裸を他人に見せるのを皆一向に苦にしない。これは日本人がセックスについて非常に大らかなモラルをもっているからで 一般に男女の関係は英国よりもはるかにルーズである。」「街を歩くとガイドに引率された観光団がたくさん居る。日本人はいまだに自分自身でことを処することができなく リーダーに指導されるのを好んでいる。日本はまだ軍国主義・絶対主義の残査がある。」等々である。さすがに高名の批評家だけあって アイロニーとしてみれば 日本の痛いところを鋭く突いている面もあるが 彼の論説は 全般に日本に対する余りにも強い無理解の上に組み立てられていた。幸いに 英国人の妻になっている日本人 日本に滞在したことのある2人の英人からのこの文に対する反論が早速次週の同紙上に掲載されたからある程度救われはしたものの この文章が高名の批評家によって書かれているだけに その影響は大きいものがあつた。

こうした日本に関する無理解の上に 戦争最中のマレーやシンガポールにおける捕虜虐待事件があり 戦意昂

→
 英国人は動物をたい
 へん大切にすし
 動物も人間によくな
 ついでいる
 こうした風景は公園
 でよくみかける



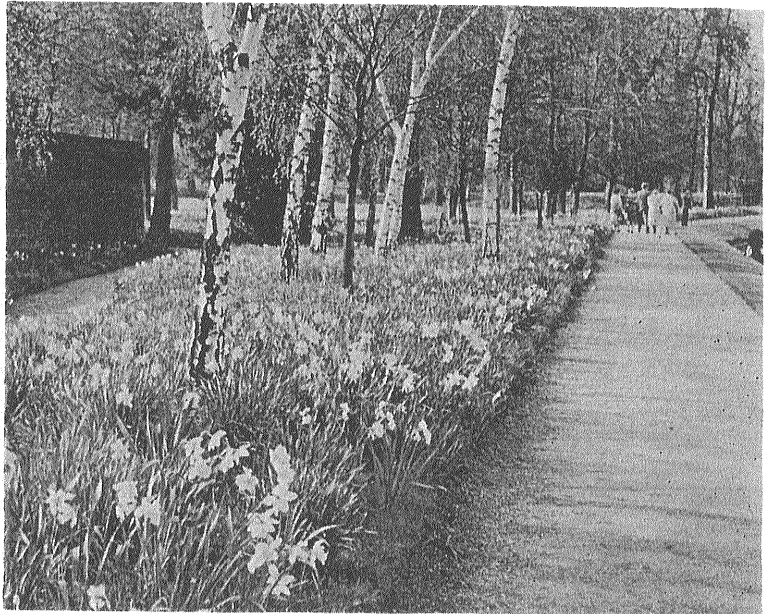
トラファルガースクエアにて



ウインザー城で開かれたドッグショー



かもめに餌をやる子供たち
(ロンドンタワー付近)



ケンブリッジの春

場のためにそれが国民に強く宣伝されたのであるから反日意識がいまだに強く残っているのもきわめて自然の結果であろう。その上 サヂズムの劣情をねらいとして 日本軍の残虐行為についての尾びれをつけた三文小説やエロプロ映画が 終戦後10数年を経た現在でも出版され 上映されているのである。なんと執念深さかと いやになってしまいが これらの出版物に対してなんらかの処置をとったり あるいは日本を認識させることについての 日本自身の努力にも欠けるころがあったのではなからうか？ 事実 あるホテルのウエーターをしている英人の爺さんから この種のいかがわしい出版物に対して 日本大使館として 何らかの手を打ってほしいと希望された経験がある。彼は日本に1〜2年滞在したことがあり 日本人はたいへん親切で平和的な国民であり これらの本に書かれているような人種ではないというのである。こうした状態であるからインテリの間ですら 日本の工業とか 工業技術や科学の水準についてのじゆうぶんな認識がない。日本の工業化のていどが英国と比べても それほど大きな違いはないと言っても仲々信用してくれない。造船トン数が英国を凌駕して世界のトップであると言っても この事実が新聞の社説で取扱われるまでは 絶対信用しようとするのではない。なんと尊大さか！ お前の帝国はすでに滅亡の道をたどっているのではないかと言ってやりたくるほどに 自分の国の高水準に自信をもち 東洋の野蛮国のことなど念頭にすらおいていないのである。

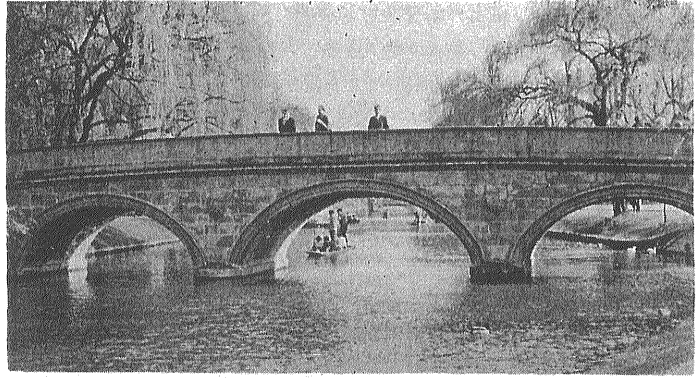
その上 日本の技術の高水準を認めざるを得なくなると 今度はイミテーション論をもち出してくる。私はオリンパス光学製の反射位相差顕微鏡を持参し 主としてこの顕微鏡を使って研究を進めた。そのコンパクトなデザイン 多目的に使える能力の幅の広さ 使い良さ等で まず教授をはじめ教室の連中の眼をみはらせた。次いで この顕微鏡をつかってそれまで想像してもいなかったほどの薄い成長層の観察に成功したことによって顕微鏡の評価は確立してしまった。それから あちこちの大学からこの顕微鏡を見るために 私を尋ねてくるようになった。ほとんどの場合 たいへん感心して帰り ある人は発注さえした。実際に研究に従事している人はこのように良いものは良いとして素直に認めるのである。一方ある人は自分のもっている英国製の位相差顕微鏡と私のものとの両方で 同一物質の顕微鏡写真をとり比較してみても 現実に2つの能力の大きい差を見出すと 2枚の写真を英国の顕微鏡会社に見せて その位相差装置の改善を要求していた。これもまた自分の国の技術に対する強い信頼心 ないしは東洋人何するも

のぞと言った 一種の優越心か 愛国心の違った面でのあらわれであるかも知れない。 現実に私の帰るころまでには 彼のもつ顕微鏡の位相差効果は大変向上し 実際に私のものよりも多少は良い結果をあげるようになっていた。しかし実際に写真をとってみると 結果は私のと比べて格段に落ちていた。結局位相差効果だけでなく 写真装置で私のものよりていどがよくなかったのであろう。

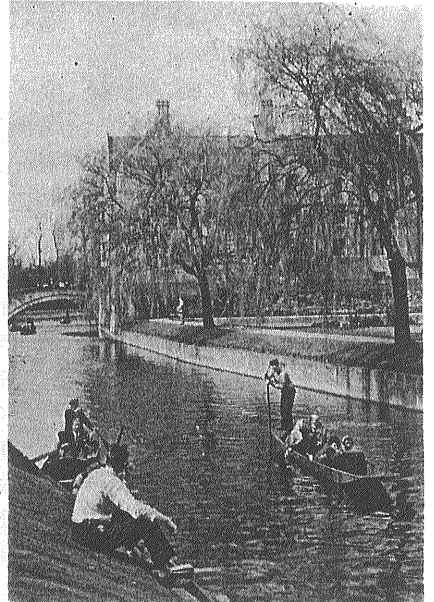
またこういうこともあった。ある日 私の実験室にある英国製顕微鏡の定期検査に 顕微鏡会社の人がきた。私の同僚であるインド人の1人は 当時すでにオリムパス顕微鏡のたいへんな信者になっていたので この男に私の顕微鏡が如何にすぐれているかを 英国の顕微鏡がこれに比べていかに図体ばかり大きくて能なしであるかを説明し出した。そうしたら彼は 一生懸命顕微鏡を観察し させておもむろにどこの部分はライツの どの部分はツアイスのイミテーションであると 顕微鏡の局部々々をとりあげて全てイミテーションであるとききおろし。その上 「日本の女性は大変デリケートであると聞いているが この顕微鏡も多分日本の女性と通じて 一年も使ったらあちこちガタガタになってしまうであろう」との御託言を下した。そして最後に 「日本からこういう顕微鏡が入ってくるようなら 英国の顕微鏡会社・労働組合が結束して完全にボイコットしてやる」と宣言したのである。彼は顕微鏡会社のマネージャーでもなく 高級社員でもなく (その後高級社員が実験室にきて私の顕微鏡をみたが 彼は素直にまとめ方のうまさに感心していた。少なくとも感心しているようなふりをみせていた。) 単なる顕微鏡修理工である。それだけに彼の言説は英国人の日本の技術に対する感じ方をかえって素直に自白したものだと言えよう。彼の最後の宣言など語らずして 日本の技術の高水準を認め それに脅威を感じていることをあらわしているのではなからうか。しかしそれを素直に認めては 先進国たる自国の名誉にかかわり かつては自分の植民地の人間であったインド人たちがいる前で権威を失つてしまうから というわけで一生懸命イミテーション論をふりまわしているわけであろう。

一般的にいつて 英国人の間に日本の工業技術に関する認識ははなはだ低い。日本はまだまだ野蛮国で すぐれた機械類は作れないぐらいにしか考えていない。しかし現実に日本の技術のすぐれたところをみせつけられると 一部のインテリたちはそれを認めるであろうが 多くは素直に認めることをきらい 一つ言葉のイミテーション論をふりまわして けちをつけようとする。しかし内心では競争者としての脅威を感じ 同時に後進国のくせに 小生意気なと言った感情をもっているのが実

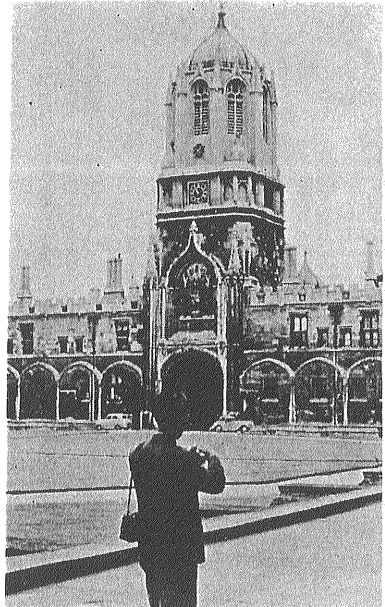
→
ケンブリッジ
にて



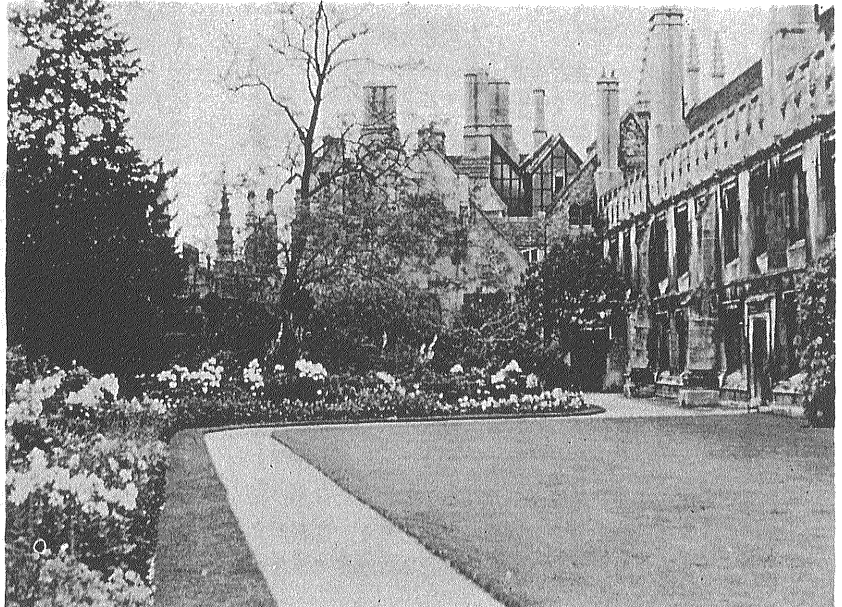
ケンブリッジ



ケンブリッジ



オックスフォード



オックスフォード

情であろう。ある日 テレビに日本の百貨店の模様が上映された。次の日以後 何人もの人から「日本があんなに近代化されており 大きい建物があるとは正直なところまったく想像すらしていなかった」という感想を聞かされた。またある日 お茶の時間に大きな建物のドアの形式について話がでた。どういうタイプのドアがよいかというわけである。ある人が私に日本の百貨店のドアはどうなっているかと聞いたので「エアーカーテン」と答えた。とたんに座は一しゅん静かになってしまった。英国ではこの形式は採用されていず 古いスタイルのドアばかりである。後進国日本に先を越されてしまったと思ったのであろうか。こうした話は数え上げて行ったらきりが無い。

日本の科学技術や一般事情について 英国人はたいへんうまいようであるが こと 日本映画に関して彼らはあらゆる讃辞をおしまない。未知の英人に出会った時にまず話題として出されるのは 彼の見た日本映画の数々である。羅生門のすぐれたアイデア 地獄門の美しいカラー等々大変高く評価されるし またたいへんの人が1つか2つの日本映画をみている。中には日本映画ファンとでも言うべき層ができていて 日本映画とあれば一つ残らず見ようと努力している。幸にいままで上映された日本映画のほとんどが芸術作品であり かつウオーター橋のたもとにある国立映画劇場とか アカデミーカーズン等の高級映画劇場で上映されているから日本映画の価値が正当に 時には実質以上に評価されている。また映画を通じて日本に対する認識も深まっている。たとえば黒沢明の「生きる」とか 五所平之助の「煙突のみえる町」のような現代映画は その中に彼らと同じ人間像を見出すことで 深い共感と呼んだ一方 現代日本人の生活様式にたいへん興味を感じていた。しかし一方 たとえ芸術作品であっても 内容あるいは場合によってはたいへん誤解を招いたり ゆがめた日本観をうえつけるものになっている場合がある。溝口健二の「赤線地帯」は日本ではたいへん評判をとり その年度のベストワンに選ばれたりした芸術作品であるが ロンドンで上映されたときの映画館は オックスフォードストリートにある煽情映画を専門としている映画館であった。私はみている間中 日本という国の物質・精神両面における貧しさ それを救うことのできない政治の貧困さに対して 湧き続けてくるいきどおりを押えることができなかったが 一方中産階級化されている英国人には この映画のもつ社会的意義は どうてい理解してもらえないだろうというおそれと こうした日本の恥部が日本全体の姿として 英国人の間に植えつけられてしまうであろうという心配を 消し去ることができな

った。

この心配はまもなく現実にあられてきた。ある日 ハイパークの例の演説会場で聴衆の中にまじって聞いているうちに かたわらにいた数人の男たちと私との間にあらたな議論の輪ができてしまった。その際「赤線地帯」の話がでて 日本という国は何と言う国かと激しい攻撃を浴びてしまった。ことにそこにいたインド人の男から「いままで日本は 国民の百分が教育を受け 教育程度が最も進んだ国だ」という話を聞いて あこがれをもっていたが あの映画をみて日本に完全に失望してしまった」と言われたのに対して 私は返答ができなかったのである。もちろん この映画が日本の現実のすべてではない。こうした恥部をなくそうとする意図で映画がつくられているのだと説明することは可能である。しかしあの映画の中に画かれている日本人の女性 いや人間に対する態度は 彼らの胸の中に強く印象づけられてしまったであろうし それを消し去ることが果してできるであろうか？ 度々書いてきたように 英国人の日本に関する知識は日本軍の残虐行為以外はほとんど皆無に近い。そうした素地のところへこの映画からの印象がしみこんでゆくのであるからその結果はたいへんにおそろしい。唯一編のこの映画が ずいぶんゆがんだ日本像を彼らの間につくりあげてしまうことであろう。そういう面の配慮を映画会社や輸出業者は果してなしたのであるか？ この映画を売るときそれが上映される映画館が煽情映画の上映で名を売っている映画館であることを当事者達は知っていたのであろうか？ 外国にいと その国の人間に日本の良い面ばかりをできるだけみてもらいたいと無意識のうちに願いがちである。一種の愛国者心理になるためであろうか？ しかし 私はそうした心理からだけで この映画のことをなげいているのではなく やはり相手の日本に対する認識のていども考慮に入れてもらいたいものだ と この映画を輸出した業者に希望したいものである。一方 逆に桜とか富士山やガイシャガール式の観光映画を出したり そうした趣味での日本の宣伝をしたとしても 一向に本当の日本を認識して貰うのに役立ちはしないであろう。日本のことを一番正しく伝え 交流の縁の下の力持ち役を果しているのは あんがい 貧乏暮らしをしている留学生たちであろう。

英国人の対米感 は 対日感とは随分違った形をとっている。彼らの対米感 は なかなか興味があるので少し紹介しよう。英国にいてアメリカの悪口を言いさえすれば たいへんの場合会話の話題には困らないし 賛同者はいくらでもでてくる。これが英国人の対米感を一番適切にあらわしている状態である。つまり彼らはアメ

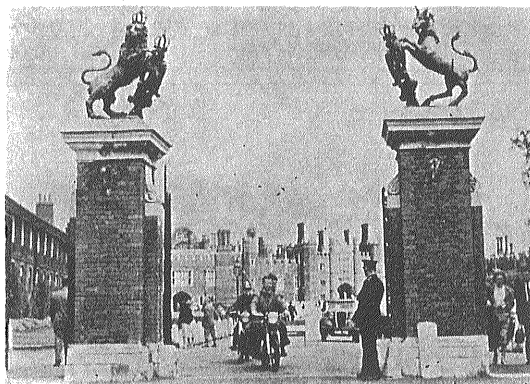
リカに対して深い嫉妬心を抱いているのである。かつては世界に覇をなした大英帝国の地位が 彼らからでた末えいの成り上り者たちに奪われてしまい 世界中の草木がアメリカの方になびいてしまっているのが 内心しやくにさわってならないのである。この感じは おそらくヨーロッパでかつて大をなした国々 たとえばフランスやドイツの国民の中にも共通して存在するのではなからうか？ それに反して小国 たとえばオランダやベルギーなどは 大戦終了後のアメリカの復興援助に対して心底から感謝しているように感じられた。ともあれ英国人たちは ことあるたびにあるいは何人かの人が集って会話がはじまるたびに ほとんどきめられたようにアメリカ人に対する悪口がはじまる。ヤンキーのマナーの欠如に対する侮べつ アメリカ式英語によって損われてゆく英語へのなげき 等々 成り上り者に対するいきどおり 侮べつでみちみちている。こうした感情はいわゆる労働者階級から インテリ階級まで 英国民全般を通じて根深く存在する。だから大学に奉職しているインテリ連中ですら たとえば英国の Ph. D システムの方がアメリカのそれよりもはるかに良く 質が高いと無条件に信じているのである。 事実はどちらの行き方が正しいか判断できないところであり 少なくとも一般的知識を幅広く身につける点では アメリカ式がまさ

っているのである。 英国人たちの対日感と対米感を比べてみると 不思議にその底にある共通するものが存在するのに気がつく。 それは何か？ 単的に言ってしまうと 彼らの大英帝国に対する消し難い郷愁である。 かつて政治・外交の面でも 科学・技術の面でも 世界をリードした自国に対するほこりが いまだに根強く残っているのである。それが成り上り者で すでに自分の地位をのりこしてしまつたアメリカに対するいきどおりないしは嫉妬としてあらわれ 後進国が政治・外交の面ではともかくとして 科学・技術の面で急速に進歩している姿に対する反発 あるいはそれを認めたくないという気持としてあらわれてくるのである。 大英帝国の繁栄はすでに過ぎ去つたものであり おとろえてゆく一途をたどっているのだと 外からみる私たちには思えるのだが ご当人たちはそれを仲々認めたがらないのであろう。 と言つても英国の底力は 日本と比べた場合 いまだに圧倒的に強いものがあるし 生活のレベルもわれわれよりはるかに高い。 わが身をふり返つてみれば 大英帝国すでに昔日の夢と化すなどと言う言葉で 日本のレベルが高くなつたようなさつかくをもつのは たいへんな誤りであらう。

(筆者は 技術部 地球化学課)



ハンプトンコートの庭



ハンプトンコート



グリーンパークにて